

アニメーション

animación

すべての子どもに読書教育を

商標登録 第 5139682 号

特定非営利活動法人日本アニメーション協会

商標登録 第 5139681 号

会報 20 号

2013年8月20日(火)発行

編集人/塚本 美樹 発行人/黒木 秀子

〒274-0825 千葉県船橋市前原西 2-21-8 松沢ビル 2F

TEL 0470-62-5905 FAX 0470-62-5906

ホームページ URL <http://animacion.jp/> メール info@animacion.jp

第6回アニメーション読書教育セミナー報告

発達に支援が必要な子どもたち 生きづらさの理解と対応

講師 中島 展 (なかしま ひろと) 氏

臨床心理士・一般社団法人こども未来共生会理事長
こども発達支援センターそらいろセンター長・相談支援事業所そらいろ 所長

去る6月9日(日)、ステーションコンファレンス東京にて、本協会主催第6回アニメーション読書教育セミナーを開催しました。講師に、発達支援の豊富なご経験を持つ中島展先生をお招きし、2時間半にわたってお話を伺いました。会場は、教育現場で発達支援と向き合う方々の真剣なまなざしと熱気にあふれました。簡単にその講演内容を報告します。

■幸せで豊かな人生を
私(中島)は現在、千葉県夷隅郡御宿町で発達相談支援事業をしています。ここでは、子どもたちに幸せで豊かな人生を歩んでもらうため、独自のメソッドを組んで療育を行っています。県内外からたくさんの子どものお集まりのみなさんがなされている読書へのアニメーションと、

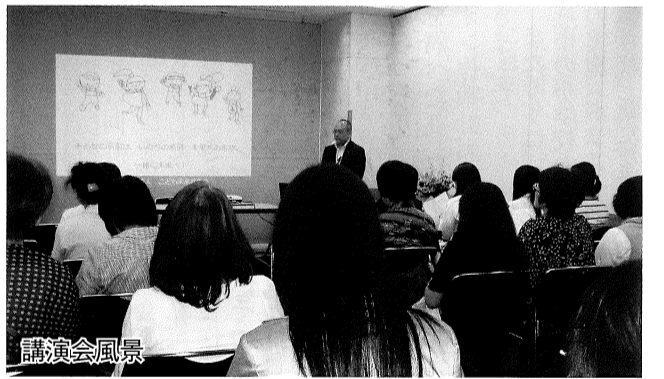
大きな目的は一緒だと思います。

■特性の観察
昨年十二月に、小学1年生の9.8%が発達障害の可能性があり、小学校全体の通常学級ではその可能性の数字は平均6.5%であるという調査結果が発表されました。(※1)

発達に支援が必要なお子さん、は、色々な生きづらさを持って

います。集団行動が苦手な問題を起こしているように見られるけれど、本人は苦しいのです。本当は苦しいのにわがままと見られていたら、関わり方も違ってきます。正しい理解で支援の効果は上がるのです。

①言葉の遅れ、偏りはありませぬか。
②運動機能の遅れ、バランスはとれていますか。



講演会風景

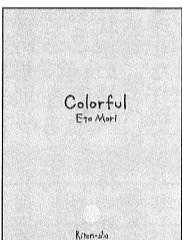
③コミュニケーションの問題はありませぬか。
④行動の特異性
⑤集団生活での問題は起きていませんか。
⑥家庭生活での問題は起きていませんか。

生きづらさの要因は障害、病気、愛着的なもの、環境など、様々です。

■行動の背景を知る
叩く、ものを投げる、じっとしていられないなど困った行動の背景には、本人の要因(①)や

付けた理由を尋ねると、「(主人公の)真が前の自分ではなくもう1回新しい自分としてやっていくの」という1回を強調したかった。このことでした。他の参加者にも理由を発表してもらい、最後にアニメーションを初めて体験した感想を聞き、終了しました。

実践は、まず最初に登場人物やあらすじを確認し、内容を思い出しました。次に「カラフル」という書名がなぜつけられたか考え、他の本の書名の実例も確認しました。その次に、各自で新しい書名を考え、発表しました。さらに発表された書名の中で、どの書名がよいと思うか1つ選び、投票しました。



「カラフル」著 理論社(文藝春秋) 1998年発行

投票の結果「Campus」(正しくは「キャンパス」)「天使の福音」(再挑戦)「AGANI」に票が集まりました。この4つの決戦投票では「AGANI」が10票を獲得し第一位となりました。「AGANI」の作者にタイトルを

葉がわからない、感覚過敏を持っているなどの発達障害②愛着障害(※2) ③精神性疾患④高次脳機能障害(※3) ⑤睡眠の疾患など環境の要因(家庭環境、障害の間違った理解や行動だけを見て内面を見ないなど)とがあります。

■その子の特性に応じた支援
問題はひとりひとり違います。本人の障害を見るのではなく、本人の生きづらさを見るのが大切です。ハードルを飛び越すのではなく迂回させ、無理なく「できる」状態をつくりたいです。

耳の知覚過敏なら、近くで大きな声で話さないようにします。「小さな声で」が理解できないなら、イメージしやすいように「ネズミの声で」と言い替えます。本人に絵や色を活用して伝えるなど、その子の生活や学習の環境を見直します。

■学校での具体的場面で
LD(学習障害)やADHD(注意欠陥多動性障害)、愛着障害、場面緘黙(※4)、睡眠の疾患の中で、具体的に本人の生きづらさを理解することで、支援の方針が決まります。

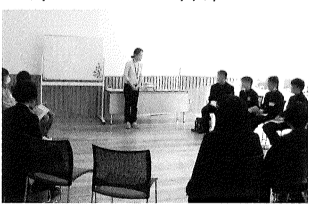
眼球振動(※5)の子どもなら、本を手で持たせるのではなく、机に置かせることで、印刷面の揺れ

が決まります。

「実践」のねらい③「読んだことをじっくりと考える」は、あらすじを確認する際に登場人物の行動を考え、物語の一番のポイントを捉え、書名をつけることで達成できました。次のねらい②「自分の発見したことを人に伝えられるようになる」は、考えたことを発表する機会が何回もあつたので達成できました。また、ねらい①「作品を深く読む」はアニメーションへの参加をきっかけに考えてもらおうとしました。

実践の具体的なやり方については、アニメーションがどのような発言をし、行動させるのか、上記の本に記載されている方法の隙間を埋める形で、シナリオを作成し、協力を対象にリハールをした上で実践しました。実践した際には疑問点がいくつか出されました。

◆疑問点①
登場人物の確認は次々に名前が挙がりましたが、あらすじ確認では発言がなかなか出ませんでした。時系列に聞くとよい



質疑応答の様子

◆疑問点②
書名をつけることが楽しそうでした。その際、他の子と「この書名はどう？」と話をしていました。が、作業は1人ですべきでしょうか？それとも、話してもよいのでしょうか？
これら疑問点は、実践後、館内で検討し、その結果をシナリオに反映させました。
詳細については、下記の報告書にまとめましたので、ご覧ください。
http://www.lib.pref.yamanashi.jp/kodomo_shen_program.html

◆平成25年度の取組予定
今年度は同じ作品「カラフル」を使用し、中学生、高校生を対象に、別の作戦にチャレンジします。第1回は10月13日(日)を予定しています。参加を希望される方は、事前にお問い合わせください。

◆問い合わせ先
山梨県立図書館サービス課
子ども読書推進担当
055-251-1104
055-251-1104
kodomo@lib.pref.yamanashi.jp

小林和美 (こばやし かずみ)
山梨県立図書館サービス課
子ども読書推進担当

▼2面につづく

▼1面のつづき

どして、感覚統合(※6)を図ることができず、今までできなかったことができてきた時、例えば「待つ」ことができた時、「あなたが待っていてくれたので、仕事が一つできたわ」と、その子とつた行動に価値を付加することで、自分が役割を果たした、貢献したと感じることができず。

こうした成功体験をたくさんすることで色々なことができるようになります。先生が喜んでくれるのがうれしいです。さらに、他者と協力したり相手に配慮する活動をしたりすることで、自分が役に立っている、必要とされているという意識を持つことができます。

現在、アメリカの学会で「アスペルガー症候群」という言葉を用いないようにする指針が出されています。発達に接した方も多いでしょう。発達上のさまざまな問題は、障害名で対処法が導き出せるものではない、という認識です。ですから、大きな「自閉症スペクトラム(連続体)」という呼び方が主流になってきています。

その子にとっての日々の困難をどう解消するか、そのためにプロセスの中では「その子が楽になるためのツール(道具)」をみつけて、それを用います。そして究極的にはそのツールなしでも生活できるように状態を目指します。その具体的なプログラムは一人一人に対して準備されなければなりません。

発達支援は、その子その子についてオーダーメイドの支援であるべきです。

現在、アメリカの学会で「アスペルガー症候群」という言葉を用いないようにする指針が出されています。発達に接した方も多いでしょう。発達上のさまざまな問題は、障害名で対処法が導き出せるものではない、という認識です。ですから、大きな「自閉症スペクトラム(連続体)」という呼び方が主流になってきています。

空間認識が苦手なお子さんは、視覚認知時にひらがなと数字が混在し、それを区別するのが苦手です。数字をマーカーなどで囲ってあげただけで、内容が理解しやすくなります。文章の内容や文脈を色で分けることも効果があります。マーカーを使いながら読みながら、「こうやったからできるんだ」と必ずプラスの評価をして成功体験をさせましょう。

読み聞かせの効果ということでは、場面緘黙のお子さんには、お母さんが読み聞かせや日常のことなどずっと言葉のシャワーをかけ続けていたら、突然話せるようになった事例があります。その子は言葉をずっとため込んでいたのです。

また、例えば壁に絵を五枚張り、一枚でも二枚でも絵を使ってお話を作れたら、「いいお話だね」と声をけけしませよう。吹出しを付けた絵に言葉を入れて、自分の行動を考えさせたり、ストーリーを作ったりさせ

学校生活では、支援を要する子が生活しやすく学習しやすくなるために、他の子どもたちが協力することができると、学級全体の社会性が向上します。問題行動の子がいる状態にただ慣れさせてしまっ、うるさいけれど無視する、という対応は反対の、人に積極的に関わる力のある子ども集団を目指したいものです。

学校の先生を専門家チームが支える

発達に支援が必要な子どもに対して、先生が自分ひとりだけで対処していると、疲労困憊してしまいます。私自身、教員経験があ



中島展先生

るので、学校という場所のことが多少わかるつもりでいます。先生が孤立するのが一番いけません。発達の検査をし、治療、療育の方針を出す医師・心理士、身体の使用方を指導する作業療法士、言語療法士、養護の先生、専科の先生、学校司書たちなどが、それぞれの専門性を尊重し協力するチームを作って担任の先生を支えることが必要です。それによって、確実にその子どものニーズを捉えることができ、支援が成功するのです。

私自身は今、そういった仕組みづくりに力を注いでいるところで。具体的には、さまざまな学校へ直接お邪魔して、お子さんに会い、先生方のご相談に乗りながら、専門家とのつながりを作っていく作業をしています。

きょうは読書関係の方がお集まりです。読むという行為について少し付け足します。

空間認識が苦手なお子さんは、視覚認知時にひらがなと数字が混在し、それを区別するのが苦手です。数字をマーカーなどで囲ってあげただけで、内容が理解しやすくなります。文章の内容や文脈を色で分けることも効果があります。マーカーを使いながら読みながら、「こうやったからできるんだ」と必ずプラスの評価をして成功体験をさせましょう。

読み聞かせの効果ということでは、場面緘黙のお子さんには、お母さんが読み聞かせや日常のことなどずっと言葉のシャワーをかけ続けていたら、突然話せるようになった事例があります。その子は言葉をずっとため込んでいたのです。

また、例えば壁に絵を五枚張り、一枚でも二枚でも絵を使ってお話を作れたら、「いいお話だね」と声をけけしませよう。吹出しを付けた絵に言葉を入れて、自分の行動を考えさせたり、ストーリーを作ったりさせ

学校生活では、支援を要する子が生活しやすく学習しやすくなるために、他の子どもたちが協力することができると、学級全体の社会性が向上します。問題行動の子がいる状態にただ慣れさせてしまっ、うるさいけれど無視する、という対応は反対の、人に積極的に関わる力のある子ども集団を目指したいものです。

学校の先生を専門家チームが支える

発達に支援が必要な子どもに対して、先生が自分ひとりだけで対処していると、疲労困憊してしまいます。私自身、教員経験があ

学校の先生を専門家チームが支える

発達に支援が必要な子どもに対して、先生が自分ひとりだけで対処していると、疲労困憊してしまいます。私自身、教員経験があ

学校の先生を専門家チームが支える

発達に支援が必要な子どもに対して、先生が自分ひとりだけで対処していると、疲労困憊してしまいます。私自身、教員経験があ

学校の先生を専門家チームが支える

発達に支援が必要な子どもに対して、先生が自分ひとりだけで対処していると、疲労困憊してしまいます。私自身、教員経験があ

せることも有効です。

読みに関わるコミュニケーションの方法をたくさん提示して、オーダーメイドの支援を充実させたいものです。

【質疑応答】

Aさん(小学校教諭) いつも嘘をつく児童がいます。なぜ嘘をつくのか聞くと、「ふざけた気持ちで嘘をついてしまう。悪いことをしたと思う」と言うのですが、どう扱ったら良いのでしょうか。

中島 直接お会いしていないのでわかりませんが、その子の場合、他に○○○○のようなことはありますか?ご家庭は○○○○な状態ではありませんか? Aさん(びっくりして) その通りです。

中島 嘘の時だけかまってももらえるから嘘をついてしまうのかもしれないですね。嘘をつかなかった日は「あなたが落ち着いていて先生は気分がいい」と嘘をつかないことを褒めて、成功体験を積み重ねることが良いと思いますよ。

Bさん(小学校教諭) 母親から「あなたはADHDよ」と言われたという児童がいるのです。片HDだか仕方ないよね」というので、返事には「そうなの。あなたもADHDだから」と言った時、返事は「そんな。あなたもADHDだ」とするのが良くないでしょうか。

Cさん(小学校教諭) アニマシオンをする時に予読をさせます。低・中学年の場合は読み聞かせするなど補っていますが、高学年になると読む分量も多く、挿絵などの手がかりも少なくなりました。読みが苦手な子は、本を読む喜びを実感する前に辛くなってしまうようです。そういう子どもと本の橋渡しの手立てとして、前段に何をすべきでしょうか。

中島 苦手をいかに補うか、アイディアを出していきましよう。例えばiPad、絵が動く読み聞かせなど、まずはそういう子の得意な方法を探してみるところからではないでしょうか。

(※1) 文部科学省「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」調査結果 平成二十四年十二月五日

(※2) 愛着障害 乳幼児期に保護する立場の大人との愛着がうまく形成されなかったことに起因するさまざまな行動や状態。

(※3) 高次脳機能障害 事故や病気による脳の損傷を原因として起きる脳の機能障害。

(※4) 場面緘黙 家庭では話すことができたのに、特定の状況や場面ではまったく話さなくなる状態。

(※5) 眼球振動 意志とは無関係に、眼珠の規則正しい往復運動(揺れ)が起こってしまうこと。

(※6) 感覚統合 身体の動きや手足の状態の感覚、身体の傾きやスピードの感覚、触覚、視覚、聴覚などの感覚を整理したり統合したりして具体的な動作が可能になるが、その整理統合がうまくいかないことや学習や遊び、生活の各場面での支障をきたす。

◎主催者より

子ども読書の読書に関わる者にとって、発達支援の課題はとて大きなものです。漠然と聞いたこととはあっても、細かい点、具体的な面についてはわからないことだらけでした。そういった点について、基本的な考え方や事例まで詳しくお話を聞き取ることが出来た。非常に勉強になりました。特に、学校生活の中で、学級全体がアップすることを目指す、教員を孤立させないことが大切、などのお話は心に迫って来ました。

お忙しい中をお出しかけくださった中島展先生、ありがとうございます。



中島先生を囲んで

新潟アニマシオン研究会
「活動の記録」

押木 和子

三年目を迎えて

新潟アニマシオン研究会は発足して三年目を迎えました。

この研究会は、新潟市内で読み聞かせボランティアを長く務めて来られた「きいちの会」代表の佐藤清江さんの「継続的・本格的にアニマシオンを勉強したい」という熱い思いから誕生しました。

新潟大学教育学部の足立幸子先生を指導者にお迎えし、毎月第三木曜日に新潟市市民活動支援センターで勉強会を続けています。時には日本アニマシオン協会の黒木理事長を講師にお迎えし、公開ワークショップも行ってきました。メンバーは現在「きいちの会」の仲間、教員、公共図書館の司書、新潟大学の学生の13名です。

公立小学校からの依頼を受けて

現在は毎回、予読本と担当者(アニマシオン)を決め、実際にアニマシオンの作戦をメンバーで体験し、協議しています。この会の特徴は、単に机上の研究に終わらず、学校からの依頼にこたえて、アニマシオンを実施する機会を持つことです。

新潟市では、市立中央図書館、新潟市では、市立中央図書館、ボランティアとして、アニマシオン・ボランティアと公立小学校とのつながりができました。

以前は、イベント的なアニマシオンの依頼が多かったのですが、最近では「図書」の授業時間に公立小学校にお邪魔することが増えました。

新潟市外でのアニマシオンで一番苦労したのは、予読本の準備でした。

同時期に複数の学校から依頼されたので、本が重ならないように綿密な配本計画が必要になりました。新潟市内で実施する場合は、市内の複数の公共図書館からクラス人数分の冊数をかき集めてもらい団体貸出しを利用することができません。新潟市学校図書館支援センターにはアニマシオン用にオレンジボックスという20冊の複本のセットも用意されています。

しかし、燕市では、同じタイトルの本をクラス人数分準備できませんでした。しかも他の市町村の図書館からは借り出せないルールでした。そこで、日本アニマシオン協会の無料貸出しサービスの世話になりました。ただし送料をどこが負担するかという点が難しい問題でした。

学校の先生との連携

小学校の先生方と連絡を密に取ることも重要なポイントです。事前に子どもたちの様子を伺い、予読本を決める際には複数候補を用意して先生方に決定に関わってもらいました。子どもたちの傾向、授業の進み方によって選本が変わってきます。

こちらが選んだ本が「難しすぎる」「長すぎる」と指摘されることもよくありました。しかし、二回三回と継続的にアニマシオンを実施することで、先生方が子どもたちの変化を実感でき、ボランティアと先生方との信頼関係を結ぶことが大きな収穫でした。

依頼内容の充実化

昨年は同じ学級で複数回のアニマシオンを実施する機会にも恵まれました。これまで私たちが開発してきた作戦(本と作戦とのマッチングを考え、その作戦の具体的な手順の作成と練習を行ってきたもの)では間に合わず、教科書の中の推薦図書や調べたり、司書の本を紹介してもらったり、図書館の所蔵冊数を調べたりしながら、アニマシオン作戦計画を立て、検討してきました。

また昨年は、新潟市に隣接する燕市の小学校からもアニマシオンの実施(ボランティア派遣)を依頼され、新たな展開がありました。

好評だった作戦の紹介

これまで、教室で子どもたちとアニマシオンをやってきた際に、特に好評だったものの一部を紹介しましょう。

◎低学年「ひとまねごころ」(H・A・レイ著・光吉夏弥訳岩波書店)で「物語ではそう言っている?」(作戦36)

◎中学年「パレエをおどらたかた馬」(H・ストルテンベルグ著・菱木晃子訳 福音館書店)で「だれがだれに何を?」(作戦54)

◎高学年「火曜日のごちそうはヒキガエル」(ラッセル・E・エリックソン著・佐藤涼子訳 評論社)で「前かな?後かな?」(作戦12)

手ごたえを感じています

同じ児童がアニマシオンを何度も体験するうちに、予読本に対する抵抗がなくなること、読書に対して積極的な態度になっていくのを感じます。

回数を重ねることによって、先生方も実施後のアンケートに具体的な疑問や意見を書いてくださるようになってきました。ご自分でアニマシオンをやってみたいと考える先生方も増えていくようです。

お互いに刺激し合いながら学ぶ喜び

今は、九月に大規模校で行う予定のアニマシオンに向けて、侃々諤々意見を交換しながら、本の選定と作戦のカード作りを行っています。

カード作りでは、私たちの作品の読み込みの深さが試されます。本に対する感想や解釈も飛び交い、新たな発見や「もう一度ちゃんと読んでみよう」と反省することが多々あります。

また研究会ではよかれと思っで作ったカードが、実際の教室では反応がないということもあります。子どもたちの感覚や視線を忘れてはいけません。さらに足立先生のスパイスのような助言からも多くを学んでいます。

アニマシオン研究会での学びは刺激的で奥が深く、この喜びこそが、この研究会を長く続けていくための秘訣なのかもしれません。

押木和子(おしきかずこ)
協会会員・新潟県立新潟高等学校教諭

発達支援と読書教育

よくいただく質問について考える 理事長 黒木 秀子

▼発達支援というテーマ
今回のアニメーション読書教育セミナーのテーマを「発達支援」にしようと思ったときに、「なぜアニメーションと発達支援が関係するのかわからない」という違和感を持たれる方がいるかもしれない。しかし実際には、発達支援、大切な課題ですね、とすんなり受け止めてくださったように感じている。私たちがアニメーション協会の会員の多くは学校現場で働く方で、学校の日常の中でこの課題は大変重要なという認識は当たり前なのかもしれない。

▼読書教育からの関心
アニメーション読書教育セミナーへの「お誘い」文面に私は次のように書いた。私の関心はこのようなものだった。

……読書へのアニメーション創設者モンセラット・サルト氏は「子どもを誘い手にするには教育が必要である」と言った。そして「アメリカの発達心理学にもとづいて「読めるように育てる」メソッドを体系化した。そこでは、幼児期から「聴く力」「読む力」の土台として「聴く」とも重要視される。私たちはさまざまな工夫をこらして「どのようにしたら集中して聴けるか」を考え、工夫してきた。しかし、現実の学校の教室では、なかなか

モンセラットさんの方法通りに行かないことも多い。なぜだろう？
例えば聴けない子のために「見える化」を行うとすると、いつか「見える化」されたもの無しで「聴ける」ようになるのだろうか、そう育てるにはどうしたらよいのだろうか……

▼二つの質問から

セミナー報告にある通り、中島先生からとても有意義なお話を伺うことができた。ここでは、私がよくいただく質問を二つ挙げて、二つまとめて考えてみたい。
1.「特別支援教育の中でアニメーションを行ってみたいが、どのようにしたら良いか？」という質問について。
2.「モンセラット・メソッドは、結局のところ読める子を対象にしているのではないか？メソッドの要求通りにやってみてもうまくいかない」という声について。

▼何を目的とするのか

まず、二つの点ともに、何を目標にするのか明らかになる必要がある。「子どもたちが、本が楽しく読める」と思っていること」を目標とするならば（それは読書教育の初めの段階としてとても重要なポイントでもある）、子どもたちの実

態にぴったり合った、楽しい方法を駆使するのが、勿論良いと思う。アニメーションの作戦のいくつかがそれに合致するならば、ぜひ試してみたい。特別支援教室においても一般的な教室においても、読むという体験が楽しいものであることが最重要だと思える。

▼発達段階に応じた読書の力を目的とするなら

しかし、発達段階に応じて、読んだ本の内容を正確に理解・把握し、他人に分かるような言葉で本の内容を説明することができるようになることを目標にするならば、行うべきことは少し違ってくる。まずは、段階的な計画を立てて、子どもたちの様子をよく観察しながら「このくらい分量の本を頑張らなければならぬ」という分量の本を頑張らなければならぬ。度々「内容について注意を払って読む態度が身に着いてきた」「込み入った内容でも自分なりに咀嚼して説明できる」などの到達点を評価しながら、急がず慌てず繰り返してアニメーションを行うことが肝心だ。こういったトレーニングを私は「アニメーションの第1段階」とまとめている。

▼扱う作品による違い

実は、読書へのアニメーションはヨーロッパ発のメソッドであり、当然ながら読書材もヨーロッパの児童文学中心に想定されている。これを日本で行うというときに、選書の難しさは多々ある。大雑把な言い方ではあるが、日本の作家による児童文学と欧米のそれとの大

きな違いがある。例えば、登場人物の「気持ち」が、自然描写や行間にさりげなく描かれていく（日本の作品）か、これでもかというまで「気持ち」「行動の動機や目的」が文章中に言葉で書かれたり（欧米の作品）か、という点だ。従って、日本の国語教育の文学読解問題では、（直接的には書かれていない）「人の気持ち」を正確に読み取ることができているか」が問われる。一方、欧米では「人の気持ち」は本にどう書いてあったか」が問われる（書いてあるのだから）。

▼「人の気持ち」が苦手な子どもたちこそ

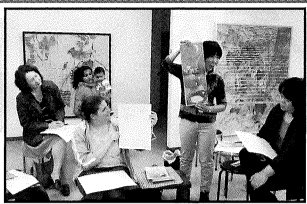
人の気持ちを付度するのが苦手なタイプの子どもでも、客観的な読みのスキルを身につければ問題は無い。実はこの点が、日本でアニメーションを行う時のある種の特徴で、または利点となるのではないかと私は思っている。
例えば、文学（物語、詩、小説）が苦手なお子さんという一群が確かに存在する。「私はこう感じた」という記述だけでは根拠が無いと感じ、それを受け入れられない。五感でキャッチしたところや、それらの言葉にエピソードを求め、それらは文学ではなく理科的な記述である。

アニメーションは、小さな子には文学を提出するが、ある程度成長した子どもたちとは、文学以外のジャンルも読み解く訓練を行う。図鑑・目録・マニアも、むしろアニメーションには積極的に巻き込んで行くことができると私は思っている。

パーシモン絵本ぎやらりー(アニメーション)

～20回目を終えて～

パーシモンの会：事務局担当 服部町子



JR中央本線「山梨市」駅前にある画廊「パーシモン」を会場にして、おとも子どもも楽しめるアニメーションを毎月開催することを目標に始めた『パーシモン絵本ぎやらりー(アニメーション)』。2011年秋に第1回を開いてから本年7月27日で21回目になります(昨年12月のクリスマス特別企画を数えると22回目)。

画廊に展示された絵などを鑑賞しながら、『見(試)る、聴く、話す、考える-アニメーションの手法を通して-』を基本に、大人も子どもも外国からきた人たちもみなで楽しめる集いの場をすることを出発点としました。アートで遊ぼうということも念頭に入れることにもしました。

アニメーションって何？どんなことをするのか？読み聞かせではないの？…と興味を持って初めて参加してくださる方から、毎回の常連さんを含めて毎回、少なくとも10名は集まっています。小学校3年生の男の子の常連さんからひろがって3、4人の子どもたちも。

アニメーションって何？という疑問を直接解決してもらおうと、2回目には協会の黒木秀子さんにわざわざ山梨まで足を運んでいただき、アニメーションについてお話していただく機会も設けました。

これまで取り上げた絵本は、全部で26冊。はじめはその回のテーマに関連した2冊の本を選んでいましたが、一冊をじっくりと時間をとったほうが…という意見もあり、変更しました。たくさんある絵本の中から各回に読む絵本を選択するのは大変ですが、たまたま開催中の絵本展からイメージして、アニメーションとしてのこれまでの経験が豊富な佐藤美智代が選んだもの(『ちいさいおうち』、『あたまにまつた石ころが』)、参加予定者に関連する絵本(『パレエをおどらかった馬』、『オーケストラの105人』)、参加者からの推薦のもの(『なぜ戦争はよくないか』)、その時節にあったもの(『はだしのゲン』、『サンタのおばさん』、『へびのクリクター』)などがあります。各回の参加者の発言をヒントとして次の本の候補があがってくる場合もあります。前回に関連したものに広げる場合も。

毎回ちらしを作り、会場において来客者に、学校図書館司書経由で宣伝してもらおう、郵送する、メール添付で送信するなど、宣伝方法もさまざまです。準備の都合で事前に出席のばあいは連絡をしてもらうことにはしていますが、毎回参加するので、いちいちお知らせは結構、郵送代を無駄にしないでとってくれる方もいます。

作戦は、とりあげた絵本その他のテキストに合ったさまざまなかたちで行います。

各自のイメージで画廊会場にある絵と「詩」を合わせてその絵の前に立ち、「詩」を朗読してもらったりもしました。毎回参加者全員が自分の声で、詩だけでなく、そのときのテキストを読む場を設けています。小学校1年生が自分の番になったとき、一生懸命読む姿にも感動させられます。

参加者が手や体を動かすアクションこそアニメーションと考えると、分けてテキストを朗読することを基本とはしていますが、時にはストーリーテリングの得意な方や芝居人を読んでもらうこともしました。特に、『はなちゃん味噌汁』の回は、画廊を抜け出して料理のできる場所(参加者の一人でレストラン経営者の「集いの場」)で、実際に味噌汁をとるために味噌をけずり、味噌汁とおにぎりを作って食べることをしました。本物を見せることも大切な要素と考え、『あたまにまつた石ころが』では鯨魚の絵本を、『ふゆめがっしょうだん』は、おにぎりをみなど、木の冬芽を参加者がみつけてきてくれたものを手に取り眺めたり、絵を描いたりカードを作ったりと、さまざまなことを毎回行います。

20回目を節目にこれまでの成果と課題を踏まえて、地域のおとなたち、子どもたち、外国から来ている人たちみんないっしょに画廊という空間で、自分を表現して元気になれる、居心地の良い集いの場をつくっていきたくと考えています。

パーシモン絵本ぎやらりーのあゆみ

1	2011年 9/7	I Like Me	『かけ』	11	8/20	『はだしのゲン』	
2	10/5	『おじいちゃんがおばけになったわけ』	『黒グルミのからのなかに』	12	9/18	『むかしばなしももたろう』	『かあさんのいす』
3	11/16	『バラライカねずみのトラプロフ』	『魔女に会った』	13	10/29	『ちいさいおうち』	『つみきの家』
4		『おとあふないがちょうおくんどうぶつむらのがちょうおくん(2のまき)』	詩の鑑賞	14	11/21	『星の王子さま』	
5	2012年 1/18	『ゴルドーのお人形』		15	12/19	『ウェン王子とトラ』	
6	3/24	『なぜ戦争はよくないか』	『つばい』	16	2013年 1/23	『へびのクリクター』	
7	4/16	『ルピナスさん-小さなおばあさんのお話』		17	2/17	『ふゆめがっしょうだん』	
8	5/23	私はこの絵本をおすすめします参加者の好きな絵本の紹介		18	3/25	『防ちようのベチューニア』	
9	6/13	『あたまにまつた石ころが』		19	5/6	『はなちゃんの味噌汁』	
10	7/18	『オーケストラの105人』		20	6/22	『パレエをおどらかった馬』	
				21	7/27	『パレエをおどらかった馬』	こどもの詩

服部町子(はっとり) まちこ 協会会員・画家

連載小説第8回

田村佐紀はそこにいた。地下トンネルの車道の左隅のコンクリート壁に上体を預けて、両足を前に投げ出して座っていた。どうしてかわからないが、カーディガンは着ていなかった。ノースリーブのブラウスを着て、なんだか不自然な姿勢でそこに「いる」のを。

お父さんが階段を下りてくる様子を感じた。「救急車！」「なんだって？真紀。佐紀はそこにいるのか？交通事故か？」お父さんの声が暗闇に響いた。点検用通路からお父さんが身を乗り出したのが、気配でわかった。お父さんは確かに見たと思う。お姉ちゃんがまったく生きた人の姿ではなくそこに「いる」のを。

命をなくして、人形のように座っているその姿は、触れてはいけないものように思えた。あたたかいかな、冷たいかな、硬いかな、やわらかいかな、と私は思った。でも、それを確かめることはしなかった。その代わりに私は、よく見た、そこにいた田村佐紀を、じいっと。

「あれで救急車を呼んでいたらエライことだったし」と、帰宅してからお父さんは言った。3人それぞれに昂奮して、その日の顛末をあれこれ話していたのだが、家でやれやれと椅子に掛けながら、ふうと言葉がなくなりました。「エライことだったし」を最後に、お父さんも私も、すうと黙ってしまった。

私はお父さんの出動要請に上る通路に登った。そして、「足の甲がつたみたいたい。歩けない」と騒いでうめくお母さんをなんとか助けて、3人で車道に降り立った。うすぼんやりとした予感の通り、そこには誰もいなかった。

お母さんはさっきまで、リビングで意味もなく泣いて泣いて泣いていた。「足の甲がつたみたいたい。歩けない。ね。きつと、転んだときに踵を痛めたんだわね。あんなところを歩いたの初めてだったんだもの。」誰だか初めに「お父さん、地下トンネルの非常用点検通路なんて、と私は聞いたかったが、黙って入っていたが、誰も食べようとは言わなかった。」

15歳のころのままのようでもあつたけれども、やはりずつと大人びて、あつたそのネズミ色の景色に溶けてしまふやうな顔。相変わらず眼が大きい。つげまつげみたいな長いまつげ。やわらかなラインの頬。瞳がうす青いグレイに見えたのはトンネルの中だったせいかな。その瞳に光は無かった。そのことはもう、私にはわかってた。

私はお父さんの出動要請に上る通路に登った。そして、「足の甲がつたみたいたい。歩けない」と騒いでうめくお母さんをなんとか助けて、3人で車道に降り立った。うすぼんやりとした予感の通り、そこには誰もいなかった。

私はお父さんの出動要請に上る通路に登った。そして、「足の甲がつたみたいたい。歩けない」と騒いでうめくお母さんをなんとか助けて、3人で車道に降り立った。うすぼんやりとした予感の通り、そこには誰もいなかった。

私はお父さんの出動要請に上る通路に登った。そして、「足の甲がつたみたいたい。歩けない」と騒いでうめくお母さんをなんとか助けて、3人で車道に降り立った。うすぼんやりとした予感の通り、そこには誰もいなかった。

私はお父さんの出動要請に上る通路に登った。そして、「足の甲がつたみたいたい。歩けない」と騒いでうめくお母さんをなんとか助けて、3人で車道に降り立った。うすぼんやりとした予感の通り、そこには誰もいなかった。

私はお父さんの出動要請に上る通路に登った。そして、「足の甲がつたみたいたい。歩けない」と騒いでうめくお母さんをなんとか助けて、3人で車道に降り立った。うすぼんやりとした予感の通り、そこには誰もいなかった。

私はお父さんの出動要請に上る通路に登った。そして、「足の甲がつたみたいたい。歩けない」と騒いでうめくお母さんをなんとか助けて、3人で車道に降り立った。うすぼんやりとした予感の通り、そこには誰もいなかった。

私はお父さんの出動要請に上る通路に登った。そして、「足の甲がつたみたいたい。歩けない」と騒いでうめくお母さんをなんとか助けて、3人で車道に降り立った。うすぼんやりとした予感の通り、そこには誰もいなかった。

私はお父さんの出動要請に上る通路に登った。そして、「足の甲がつたみたいたい。歩けない」と騒いでうめくお母さんをなんとか助けて、3人で車道に降り立った。うすぼんやりとした予感の通り、そこには誰もいなかった。

私はお父さんの出動要請に上る通路に登った。そして、「足の甲がつたみたいたい。歩けない」と騒いでうめくお母さんをなんとか助けて、3人で車道に降り立った。うすぼんやりとした予感の通り、そこには誰もいなかった。

公開の催し案内

■第149回アニメーション勉強会

主催 NPO 法人日本アニメーション協会
 日時 8月10日(土) 14:00~17:00
 会場 真生会館2階第2会議室(東京都新宿区)
 講師 黒木秀子
 対象 どなたでも
 参加費 NPO会員500円・一般1,000円/定員:なし
 内容 予読本『どうぶつがすき』
 パトリック・マクドネル作 なかがわちひろ訳
 (あすなろ書房) アニマドロー:遠田美紀
 『おそうじをおぼえたがらないリスのゲルランゲ』
 ジャンヌ・ロッシュ=マゾン作 (福音館書店)
 アニマドロー:森和子
 『注文の多い料理店』
 宮沢賢治作(宮沢賢治絵童話集③くもん出版)
 アニマドロー:諏訪志げる

申込み・問い合わせ先
 事前の申込みは不要です。問い合わせはNPO事務局へ

■第150回アニメーション勉強会

主催 NPO 法人日本アニメーション協会
 日時 9月14日(土) 14:00~17:00
 会場 真生会館2階第2会議室(東京都新宿区)
 講師 黒木秀子
 対象 どなたでも
 参加費 NPO会員500円・一般1,000円/定員:なし
 申込み・問い合わせ先
 事前の申込みは不要です。問い合わせはNPO事務局

■どなたでも楽しんで読書の世界を広げるパーシモン 絵本ギャラリー(アニメーション)

呼びかけ人 さとうみちよ はっとりまちこ
 日時 7月27日(土) 14:00~16:00
 会場 山梨市ギャラリーパーシモン(JR山梨駅より徒歩3分)
 〒405-0018 山梨県山梨市上内川1262-5
 パレスビル2F Tel & Fax 0533-88-20
 参加費 500円(会場費・資料代として。子どもさんは無料です)
 内容 『パレエをおどった馬』・こどもの詩

申込み・問い合わせ先
 ご参加くださる方は事務局までお知らせください。
 Tel & Fax 0553-32-3613 (事務局:服部)

■多摩アニメーションの会例会

主催 多摩アニメーションの会(代表・丸山亮子)
 日時 8月31日(土) 14:00~17:00
 会場 スタジオ「M」(JR南武線「矢川」下車7分)
 講師 黒木秀子
 対象 どなたでも
 参加費 2,000円
 内容 『ネコのホームズ 十三かかしの呪い』
 南部和也 作 Y U J I 絵/理論社1,260円

申込み・問い合わせ先
 アニメーション協会事務局へお願いします。

■新潟アニメーション研究会例会

主催 新潟アニメーション研究会
 日時 9月19日(木) 18:30~20:30
 10月17日(木) 18:30~20:30
 11月21日(木) 18:30~20:30
 会場 新潟市市民活動支援センター
 新潟市中央区西堀通6番町894番地1西堀
 6番館ビル3階 Tel & Fax 025-224-5075
 講師 足立幸子(新潟大学教育学部准教授)
 対象 どなたでも参加できます
 参加費 継続参加の方は1,000円
 内容 【9/19】予読本『霧のむこうのふしぎな町』
 柏葉幸子著 杉田比呂美イラスト
 講談社青い鳥文庫
 【10/17】予読本『とうさんおはなしして』
 アーノルド・ローベル著 三木卓訳 文化出版局
 『木を植えた男』ジャン・ジオノ著
 フレデリック・バック絵 寺岡襄訳 あすなろ書房
 【11/21】予読本『くしゃみくしゃみ天のめぐみ』
 松岡享子文 寺島龍一絵 福音館書店

申込み・問い合わせ先
 Tel 090-3001-8774 佐藤清江

■アニメーション勉強会群馬

主催 アニメーション勉強会群馬
 日時 8月10日(土) 13:30~
 会場 太田市立沢野中央小学校
 〒373-0831 群馬県太田市富沢町73番地
 Tel 0276-30-5521 前回と会場が同じです。
 駐車場は校内の駐車場をご利用ください。
 講師 天田比呂志
 対象 ご自由に
 参加費 年間500円。1回限りは無料/定員:特になし
 内容 予読本『こぶたのポインセチア』
 フェリシア・ボンド作 池本 佐恵子訳 岩崎書店
 購入してお集まりください。おすすめの本も1冊見つけてください。みんなで楽しみましょう。

申込み・問い合わせ先
 詳しくはホームページ
<http://wing-ojima.com/index.html> をご覧ください

■第3回名古屋アニメーション勉強会

日時 8月24日(土) 10:00~16:00
 会場 名古屋市立鶴舞中央図書館 第1集会室
 Tel 052-741-9811
 講師 黒木秀子
 定員 30名
 参加費 2,000円(*なお、会の終了後、講師を交えて懇親会を持ちます。参加していただける方は、懇親会参加有無も合わせてお知らせください。3,500~4,000円ぐらい)
 内容 予読本『ムーミン谷の彗星』
 トーベ・ヤンソン作・絵 下村隆一訳
 講談社ムーミン童話全集1または、青い鳥文庫、講談社文庫でも可。当日までに読んでご参加ください。本をお持ちの方は当日ご持参ください。
 申込み・問い合わせ先
 中嶋 mail chiberou@ob.aitai.ne.jp または、
 chiberou-2@softbank.jp/Tel 090-9938-1055
 大鹿やよい mail deer3201@yahoo.co.jp/Fax 052-483-2377
 なお、当日の昼食は、ご自分でご用意ください。
 (図書館では、食事はできませんが周辺にお店はあります。)

定期通常総会報告

特定非営利活動法人日本アニメーション協会 会員の皆様、また、会報読者の皆様。本年6月9日(日)にステーションコンファレンス東京におきまして定期総会を開きました。総会は、出席者112名(委任状含む)で、会員総数170名の過半数を満たして成立しました。会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

総会は天田副理事長の司会進行のもと、議長に川上理事を選出し、総会議案として、黒木理事長より平成24年度の事業報告および活動にかかわる収支決算の報告(別表1)を行い、承認されました。更に、役員任期満了に伴う新役員選出を行い、議決されました。

新役員は別表2の通りです。更に、私たちのNPOについて、ご出席の会員の方々から忌憚のないご意見を伺うことができました。

NPOがあることにより読書へのアニメーションの紹介普及活動が支えられている、もっと宣伝方法を工夫したらどうか(例えばHPでアニメーション風景の動画を見られるようにする等)、会報を通じて直接会ったことのない人との交流が実現できている、など、励ましの満ちた前向きのご意見をいただき、有難く感謝申し上げます。

今後とも、皆様にはどうかよろしくお願い申し上げます。協会をご支援くださいますようお願い申し上げます。

会員の皆様へのお知らせ

本年3月末に、当協会の貸出し図書部門を移転いたしました。同時に、貸出しその他に関する電話番号とFAX番号も変更となりました。NPO法人の所在地はこれまでと変わりません。NPO設立当初より5年間、アニメーション用貸出し図書保管の場所を快くご提供くださった龍馬進学研究会様に、心より御礼を申し上げます。

事務局便り

お暑い毎日が続きますがお元気でいらつしゃいますか? アニメーション協会では、本年4月初めに、図書貸出し部門を千葉県いすみ市に移しました。同時に新スタッフとして齋藤和代さんを迎えて、みなさまからの利用申し込みをお待ちしています。

図書貸出し部門の住所・電話・FAXは次の通りです。メールアドレスは変更ありません。

●アニメーション協会 図書貸出し部門 (黒木秀子)

〒299-14503
 千葉県いすみ市岬町和泉
 1895-12 弥生寮内
 ☎0470-6215905
 ☎0470-6215906
 FAX 0470-6215906

平成24年度 活動計算書 平成24年4月1日~平成25年3月31日まで 表1

科目	金額	
I 経常収益		
1 受取会費・受取入金		
正会員受取会費	438,000	
支援会員受取会費	200,000	
受取入金	24,000	662,000
2 受取寄付金		
受取寄付金		2,354,100
3 受取助成金等		0
4 事業収益		
アニメーション推進のための研修、講習会等の事業・イベントの開催収入	145,500	
	120,500	
5 受取利息	23	23
経常収益計		3,016,123
II 経常費用		
1 事業費		
アニメーション実施用の図書貸出し事業	26,429	
アニメーションに関する研究調査と広報事業費	722,855	
アニメーション推進のための研修講習会等の事業	99,555	
イベントの開催事業費	84,981	
事業費計		933,820
2 管理費		
人件費		
給与手当	158,289	
人件費計	158,289	
旅費交通費	4,900	
通信費	507,349	
交際費	6,300	
見本費	28,800	
賃借料	289,200	
水道光熱費	120,000	
消耗品費	73,003	
租税公課	1,400	
事務用品費	17,679	
支払手数料	450,525	
諸会費	13,000	
新聞図書費	3,518	
その他経費計	1,515,674	
管理費計		1,673,963
経常費用計		2,607,783
当期経常増減額		674,340

特定非営利活動法人日本アニメーション協会 新役員(任期2年間) 表2

理事長	黒木 秀子 (留任)	副理事長	諏訪志げる (留任)
副理事長	天田比呂志 (留任)	理事	遠田 美紀 (留任)
理事	太田 克子 (留任)	理事	森 和子 (留任)
理事	川上みさ子 (留任)	理事	山本 伸子 (新任)
監事	青柳 啓子 (留任)	監事	

アニメのお勧め本~これ!

ファーブルの「昆虫記」は有名だけれど、特に虫が好きでもない子にはとつきにくく、面白さを理解できないことも。その点、この本は、ファーブルの息子を「語り手」に据え、終始、読者と同年齢の子どもの視点から「ぼくのお父さんってこんなことをしているんだよ」と描いているので、小学校中学年生にとっても読みやすい。ファーブルがそれまでの昆虫学者と比べて画期的だったのは、生きた昆虫の生態を観察してその特徴を明らかにしたこと。その「すごさ」

仮説実験授業で有名な板倉先生が、小学生が折に触れて読むために編んだ「新総合読本」の4巻目。空の星や地球そのものの謎はどう観察されどうとらえられてきたか、また、物質の一番小さな単位である「原子」はどのように発見されたのか。科学的思考を追求した人たちの興味深いエピソードが満載。

人間って何だろう? という根源的な問いかけを、チンパンジーを観察する中から考える。そもそも人とチンパンジーとは兄弟? 遠い親戚? それとも他人の空似? 進化の中で「ヒト」という概念をどうと位置付けるか、まっとうでちゃんと教えてくれない、興味深いチンパンジーの世界にぐんぐん連れて行ってくれる。



編集後記

おかげさまで会報発行が20号目を迎えました。多くの皆さまからのご寄稿とご協力により、ここまで来ることが出来たのだと思います。本当に感謝しております。

今年4回の発行でするので催しのご案内など度々ありますが、アニメーションに関する活動が多くなるので、様々な形で関わっていただくという意図もこめて掲載しております。

今後も引き続き皆さまからの情報や活動のご報告をお待ちしております。(塚本美樹)



いすみ市に移転した図書貸出し部門